現代日本語の名づけにおける逸脱的な造語法「文の包摂」の考察

An Analysis of Deviant Word Formation “Sentential Compound” in Japanese Naming

泉　大輔
IZUMI Daisuke

〔要旨〕
本稿で取り上げるのは、「振り込め詐欺」「早く帰れオーラ」「幻のポケモンをもらおう！キャンペーン」「いいねボタン」「かまってちゃん」「朝はパンだ派」など、合成語の前項に「文相当の要素」が生起する言語現象（以下、「文の包摂」）である。一般に日本語の語形成規則では、語（小さい言語単位）の中に文（大きい言語単位）は入り得ない（* 明日行こう店）。しかし、「振り込め詐欺」という表現は、「〇〇詐欺」という合成語の中に「振り込め」という命令文相当の要素が含まれている点で逸脱的な表現と言える。本研究では主にコーパスを用いて「文の包摂」の実例を収集し、その使用実態を記述した。その上で、「文の包摂」は個人が臨時的に名づけやネーミングに用いられ、「新奇性」という表現効果がその使用の動機づけになっていると考察した。

Key word: 文の包摂、逸脱、語形成、名づけ、引用

1. 研究の目的と研究の背景

本研究で研究の対象としているのは、「振り込め詐欺」「幻のポケモンをもらおう！キャンペーン」「いいねボタン[1)]」「朝はパンだ派」「かまってちゃん[2)]」「なんでも言うこと聞きます券」など、「文相当の要素」に名詞や接尾辞が直接後続している言語形式である。本研究では、このような言語形式を、合成語のその内部に文相当の要素が包み込まれた言語現象と捉え、便宜的に「文を包摂する合成名詞[3)]」（文包摂名詞）と呼ぶこととする[4)]。

通常、動詞の命令形（「振り込め」）や意志形（「幻のポケモンをもらおう」）、テ形（「かまって」）、名詞に後接する「だ」の終止形（「朝はパンだ」）、終助詞（「いいね」）、丁寧形（「なんでも言うこと聞きます」）などで終了する文は、合成語の前項になり得ない。前項語基が名詞や動詞の連用形、形容詞語幹である合成語（「経済問題」「上り坂」「嬉し涙」など）であれば通常の語形成の範囲で扱えるが、文包摂名詞は本来なら合成語の前項にはなれないはずの要素を持ち、旧来の語形成論ではとらえきれない現象である。この点で文包摂名詞は、従来の文法規則には当てはまらない特異な言語現象であると言える。

このように、文包摂名詞は逸脱的な表現であるにもかかわらず、近年、その使用が広く観察される。例えば、ブログなどのウェブ上のテキスト、SNS 上のテキスト、広告表現やキャッチフレーズ、日常会話など、話し言葉や打ち言葉[5)]で特にその実例が多数見られる。しかし、従来の日本語研究では、文包摂名詞は研究の対象として詳細に記述・考察されてこなかった。そのため、このような特異な言語現象について、その実態は明らかにされておらず、本質的な理解は得られていない。

そこで、本研究では、現代日本語における文包摂名詞の実例を収集してその出現状況を調査し、文包摂名詞の使用実態について記述する。特に、名づけの観点からその使用実態について考察することで、文包摂名詞が使用される動機付けの解明に迫る。

2. 先行研究の検討

文包摂名詞に関連する先行研究を見ると、次の 2 つの問題点があると考えられる。第一に、文包摂名詞の全体像が明らかになっていないという点である。影山（1993）では、「［夏目漱石と正岡子規］展」「［カラオケとゲーム］大会」といった表現を取り上げ、このように語の内部に句が包み込まれる現象を「句の包摂」と呼んでいる。通常、語の内部には語より大きい単位が入れないため、語が句を包摂する表現は語形成規則を逸脱する例外的な現象であるとされている。このような現象については、林（1982）や石井（2007）でも取り上げられており、前項を句とする臨時的な合成語として位置づけられている。しかし、これらの先行研究では語の内部に文相当の要素が包み込まれる表現については記述されていない。

個別の接尾辞を扱った先行研究の中では、山下（2005）、金田（2014）、曽（2017）などが「的」

「系」「風」「式」「感」などの接尾辞に前接する語基が、語から句、さらに文にまで拡大し、派生語の内部に文が包み込まれる用法があると述べている。先行研究では文を前項とする派生語の用法について、それを形成できる種々の接尾辞が取り上げられているが、一方、文包摂名詞を形成する後項名詞については、名詞「状態」しか取り上げられていない。

名詞「状態」について考察した新屋（2014）では、「「何だコリャ？？」状態」「「こんなに難しかったっけ」状態」といった表現について、文を前項、「状態」を後項とする複合名詞と位置付け、その意味・表現機能などを記述している。しかし、実例を観察すると、「系」「式」「風」「感」といった接尾辞や、「状態」という名詞の他にも種々の名詞が文包摂名詞の後項になる場合が見られ、その全体像は明らかになっていないと言える。

第二の問題点は、文包摂名詞を分析する上で適切なジャンルのデータを十分に確保できていないという点である。文包摂名詞は従来の語形成規則を逸脱する例外的な表現であるため、規範的な書き言葉においては出現することがなく、周辺的な問題として位置付けられてきた。しかし、当該の形式はブログ、SNS などの口語体のテキストを見ると、その実例の数は必ずしも少なくはない。

文包摂名詞について取り上げた先行研究では、口語体のテキスト（雑誌の記事、エッセー、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』における「Yahoo ！知恵袋」および「Yahoo ！ブログ」、ウェブ上のテキスト）から得られた用例を提示しているものの、その用例は少数にとどまり、十分な量のデータに基づく検討は行われていない。

また、これらの先行研究の用例は主に 2010 年代以前のものが中心で、2010 年代以降の比較的新しいデータを対象とした定量的な調査は行われていない。文包摂名詞のデータを収集するうえでは、出現しやすいウェブ上のテキスト（ブログなど）のデータが収録されたコーパスを使用することが必要である。

以上の 2 つの問題点をふまえて、本稿では、文包摂名詞について、その全体像を明らかにするために、まずはその出現状況を調査する。その際、文包摂名詞が出現しやすいウェブ上のテキストデータが収録された大規模コーパスを用いて用例の収集を行う。

3. 調査方法

文包摂名詞は、新聞や論文などの規範的な書き言葉ではその使用がほとんど見られない。しかし、近年では CM やポスターなどの広告、ネットニュースの見出し、雑誌などの本文、テレビ番組のタイトルなどで広くその実例が見られる。特に、2000 年以降のインターネットの普及に伴い、ブログや SNS などのウェブ上のテキストで文包摂名詞の実例が数多く観察される。そこで、本研究では、文包摂名詞の諸特徴を詳細に記述するために、その使用が広く観察され、より多くの実例が収集可能なウェブ上のテキストを調査資料として用いることとする。

ウェブ上のテキストから実例を収集するにあたって、本研究では『国語研日本語ウェブコーパ

ス』を使用する。このコーパスは国立国語研究所がウェブ上の日本語テキストから収集したデータをもとに開発した日本語コーパスである。ウェブ上のデータの収集期間は 2014 年 10 ～ 12 月とされており、約 100 億語が収録されている。

続いて、検索条件について検討を行う。本コーパスの検索ツールである『梵天』では「品詞」や「活用形」などの条件を指定することで用例の検索が可能である。文包摂名詞は、「文相当の要素」の直後に名詞または接尾辞が後続する形式であるため、このような形式を抽出するには、文の直後に名詞または接尾辞が共起するという条件を指定できればよい。しかし、コーパスでは検索条件に「名詞」や「接尾辞」を指定して検索することはできても、「文」という単位を検索する機能はない。そのため、文を検索するための別の条件を設定しなければならない。なお、「文」の単位を検索するために、句点（「。」）、感嘆符（「！」）、疑問符（「？」）を検索条件に指定するという方法も想定されるが、『国語研日本語ウェブコーパス』ではその仕様上、これらの記号を検索条件に指定して検索することはできない。

そこで本研究では、文包摂名詞の多くの用例において、その前項の内部に種々の文末形式が現れることに着目する。そのような文末形式のうちのいくつかをコーパスの検索条件に指定することで、文包摂名詞の用例の抽出を試みる。例えば、コーパスの検索条件で、「命令形」の直後に「名詞」が後続するように指定すれば、命令形「辞めろ」に名詞「発言」が後続した「今すぐ辞めろ発言」といった用例を抽出することができる。

本研究では、次の 4 つの検索条件によってデータを収集する。すなわち、（a）「活用形」に「命令形」を指定するという条件（「早く帰れオーラ」など）、（b）「活用形」に「意志推量形」を指定するという条件（「幻のポケモンをもらおうキャンペーン」など）、（c）「語彙素」に「だ」、「活用形」に「終止形」を指定するという条件（「犯人はお前だ宣言」など）、（d）「語彙素」に「な」を指定するという条件（「こんなもんだな程度」など）である。これらの形式が文末に現れる文は、後続する名詞を「という」などの形式を介在せずに直接修飾することはできない。そのため、通常の連体修飾構造ではなく、文包摂名詞だと判断できる。また、接尾辞についても、このような文末形式に直接後接することはできないため、文包摂名詞と判断可能である。

（a）「命令形」および（b）「意志推量形」を選定したのは、筆者が観察した限り、文包摂名詞の前項の述語が「命令形」や「意志形」である用例が多く見られたためである。（c）「「だ」かつ「終止形」」という条件を選定した理由は、この検索条件であれば、次のような種々の「文相当の要素」を前項とする文包摂名詞の実例が収集できるためである。例えば、名詞に「だ」の終止形が後接する名詞述語文（「「これは夢だ」状態」など）、な形容詞の終止形で終了する述語文（「「どうせダメだ」発言」など）、説明のモダリティを表す「のだ」で終了する文（「どうしたらいいんだ状態」など）がある。（d）「な」を選定する理由は、筆者が行った予備的な調査において、文包摂名詞の前項の文末に現れる終助詞のうち、終助詞「な」の用例が最も多く見られたからである[6)]。

4. 調査結果

前節で述べた手順で用例数を集計した結果、最終的には有効なデータとして 15,763 件の用例が得られた。収集期間および集計期間は 2019 年 4 月～ 2021 年 8 月である。得られた用例を見ると、文包摂名詞を形成する後項になり得るものには 50 種類の名詞や接尾辞があることが明らかとなった。さらに、筆者が Google 上のテキストやテレビ番組などから採取した文包摂名詞の用例には、以下の表 2 にあるような名詞や接尾辞が後項となるものも見られる（182 種類）。したがって、上述のコーパスで得られた後項になり得る形式 50 種類と合わせると、少なくとも 232 種類の形式が文包摂名詞の後項になり得るということになる。

以下の表 1 および表 2 は、文包摂名詞の後項別に出現数とその用例を示したものである。表 1 中の用例はウェブコーパスから得られた中核的な資料中のものであり、表 2 の用例は筆者が個別に採取した補助的な資料中のものである。

表 1　文包摂名詞の後項となり得る形式とその出現数および用例一覧（50 位まで）

順位	後項	合計	用例
1	程度	3,047	「頑張れ」程度、「注意して｛くれ／ください｝」程度、「気を付けろ」程度
2	発言	1,895	「戦ってください」発言、「かかってこい」発言、「早く座れ」発言
3	状態	1,374	「どうにでもなれ」状態、「どうしよう」状態、「こんなの無理だろ」状態、
4	キャンペーン	887	「ミッフィーシールをあつめよう」キャンペーン、「そうだ京都へいこう」キャンペーン、「東北を応援しよう」キャンペーン
5	コール	722	「がんばれ」コール、「帰ってこい」コール、「帰れ」コール、「金返せ」コール
6	シリーズ	627	「ウォーリーをさがせ」シリーズ、「よいこになあれ」シリーズ
7	感	613	「どうしよう」感、「頑張ろう」感、「やっちゃったな」感、「なんだかなー」感
8	攻撃	480	「おやつくれ」攻撃、「買ってくれ」攻撃、「遊ぼう遊ぼう」攻撃
9	メール	374	「帰って来い」メール、「頑張れ」メール、「一緒に帰ろう」メール
10	レベル	372	「あったらいいな」レベル、「聞いたことがあるかなー」レベル
11	オーラ	356	「話しかけないでください」オーラ、「早く帰れ」オーラ、「近寄るな」オーラ
12	企画	295	「レビューを書いてプレゼントをもらおう」企画、「お花を贈ろう」企画
13	さん	291	こまったさん、わかったさん、有りがたうさん
14	コーナー	290	「教えてください」コーナー、「ご自由にお取りください」コーナー
15	式	257	「ご自由にお取りください」式、「習うより慣れよ」式、「俺についてこい」式
16	運動	254	「ウォール街を占拠せよ」運動、「東京にオリンピックを招致しよう」運動
17	作戦	250	「押してダメなら引いてみろ」作戦、「急がば回れ」作戦
18	精神	223	「やってみなはれ」精神、「急がば回れ」精神、「習うより慣れろ」精神
19	イベント	221	「スティッチを探せ」イベント、「お嬢さんをください」イベント
20	プロジェクト	216	「手作りトートバッグで被災地を応援しよう」プロジェクト、「カンボジアに学校を建てよう」プロジェクト
21	アピール	168	「エサくれ」アピール、「買ってくれ」アピール、「俺カッコイイだろ」アピール

順位	後項	合計	用例
21	派	168	「習うより慣れろ」派、「あたってくだけろ」派、「オレについてこい」派
23	論	160	「ドイツを見習え」論、「このままでは日本はダメだ」論
24	モード	158	「勘弁してください」モード、「どうしよう」モード、「帰りましょう」モード
25	宣言	141	「結婚してください」宣言、「付き合ってください」宣言、「絶交だ」宣言
26	系	129	「いい話だなー」系、「お前が言うな」系
27	計画	124	「秋あたりに温泉に行こう」計画、「今から東京行こう」計画
28	タイプ	114	「俺に任せろ」タイプ、「習うより慣れろ」タイプ、「果報は寝て待て」タイプ
29	遊び	107	「取って来い」遊び
30	指令	105	「牛乳買って来い」指令、「早く帰って来い」指令
31	ツアー	96	「そうだ、京都へ行こう」ツアー、「そらジローに会いにいこう」ツアー
32	講座	91	「コンピュータで音楽をつくろう」講座、「親子でリースを作ろう」講座
33	命令	85	「帰れ」命令、「来い」命令、「降りろ」命令
34	メッセージ	83	「頑張ってください」メッセージ、「しばらくお待ちください」メッセージ
35	ポーズ	80	「ごめんなさい」ポーズ、「くれくれ」ポーズ、聞こえませんポーズ
36	画面	78	「ログインしてください」画面、「しばらくお待ちください」画面
37	方式	76	「ご自由にお持ちください」方式、「急がば回れ」方式、「損して得とれ」方式
38	篇	67	「手をつなごう」篇、「大人の旅を楽しもう」篇、「ハッピーになろう」篇
39	編	66	「だまされないよう頑張ろう」編、「オープンキャンパスで会いましょう」編
40	風（ふう）	63	「何でもいいから書いてくれ」風、「同情するなら金をくれ」風
41	ゲーム	60	どこ行くんですかゲーム、「箱の中身はなんだろな」ゲーム、「待て」ゲーム
41	表示	60	「しばらくお待ちください」表示、「充電してください」表示
43	様	59	「小説家になろう」様、「新時代ではこうしよう」様
44	スレ	58	「この本を読め」スレ、「作曲できる奴ちょっと来い」スレ
45	コメント	56	「おかえりなさい」コメント、「食べてみてください」コメント
45	特集	56	「できるかな」特集、「海女になろうよ」特集、「設計ミスをなくそう」特集
47	展	54	書いたよ作ったよ展、あっ、これいいね展
48	エンド	53	「俺達の戦いはこれからだ」エンド
48	連呼	53	「ごめんなさい」連呼、「出て行け」連呼、「帰れ」連呼
50	デモ	51	「ウォール街を占拠せよ」デモ、「尖閣諸島を守れ」デモ
合計		15,763	

表 2　文包摂名詞の後項となり得る形式とその出現数および用例一覧（51 位以下）

順位	後項	合計	用例
51	祭り	7	起きよ祭り、「寿々ちゃん明日が 1 歳だね」祭り、「すごいじゃん」祭り
52	合戦	6	「誰がやるか」合戦、「俺は知ってるぜ」合戦、オヤツよこせよこせ合戦、待て合戦
53	おばけ	5	もったいないおばけ、くれくれおばけ、やだやだおばけ、どっか連れてけオバケ
53	顔	5	「やったぜ」顔、「知ってますよ」顔、「もういいや」顔、「ボク知らないよ」顔
53	詐欺	5	今年こそ痩せるよ詐欺、「アイドルになりませんか」詐欺、出すよ出すよ詐欺

順位	後項	合計	用例
53	欲求	5	「こうするとどうなるか」欲求、「ピザ食いたーい」欲求
57	仮説	4	地理要因が成長に「直接」効くよ仮説、政治制度が重要だよ仮説、人が重要だよ仮説
57	級	4	「あんた死ぬよ」級（の脅し文句）、「おまえさんはサイボーグか」級（の美しさ）
57	教	4	「晴れろ～！」教、頑張れ教、何でもござれ教、「ま、いっか」教
57	クラス	4	「走りたいぞ」クラス、「熱？平熱じゃん」クラス（の超微熱）
57	コース	4	「黒目川の下流を目指してどこまでも」コース、基礎からみっちり教えるわよコース
57	思考	4	「まぁいっか」思考、「俺の酒が飲めないのか」思考、「なんくるないさー」思考
57	時代	4	「そうですね」時代、「ガンガンいこうぜ」時代、「あったかななかったかな」時代
57	主義	4	事なかれ主義、「どうにかなるさ」主義、「どーでもいいよ」主義
57	賞	4	頑張ったね賞、あいつ、やるな賞、来年があるさ賞
57	星人	4	やだやだ星人、何だっけ星人、構ってよ星人、待ってればいいよ星人
57	調	4	効くんですよ調、線路は続くよ調、待っていたわ調
57	プラン	4	「甲子園へ行こう」プラン、「ワンコと同室お泊り・草原を駆け回ろう」プラン
57	ブーム	4	人は褒めて伸ばすよブーム、関西魂とにかくつっこめブーム
57	要求	4	「なんかくれ」要求、「空気を読め」要求、「トイレに連れて行け」要求
57	理論	4	「社会じゃあ通用しないぞ」理論、「鶏が先か卵が先か」理論
72	映画	3	「恋人が死んで悲しいな」映画、「僕は夢を信じるよ」映画
72	おじさん	3	早く帰れおじさん、結果出せおじさん、なんちゃっておじさん
72	型	3	「俺は嫌だ」型、「助けてくれ」型、「インフルエンザかもね」型
72	願望	3	「つくりたーい」願望、「私は他人と違うのよ」願望、「欧米人になりたーい」願望
72	機能	3	「いいね」機能、「あったらいいな」機能、「なんだかなあ」機能
72	疑惑	3	この家傾いてるぞ疑惑、水樹って薫子さんが好きなんじゃね疑惑
72	グループ	3	「1200m までなら、僕たちの世界だよ」グループ、「天使を倒そうぜ」グループ
72	警告	3	「インクが無いよ」警告、「死ぬぞ」警告、「すぐなくなっちゃいますよ」警告
72	劇場	3	NHK きっとこんな感じなんじゃないか劇場、NHK つまりこういうことなんだ劇場
72	月間	3	「とりあえず毎日ブログつけるぜ」月間、「腹を引っ込ませるぞ」月間
72	券	3	なんでも言うこと聞きます券、スタバーのコーヒーおごるよ券
72	現象	3	「以前お会いしましたよね～」現象、「ジブリだからとりあえず見とくか」現象
72	広告	3	「あなたの PC にはウイルスがいますよ」広告
72	婚	3	できちゃった婚、こんなもんかな婚、リアルね婚
72	週間	3	「お前ら自分で勉強しとけよー」週間
72	症候群	3	「死んでもいいや」症候群、「ま、いっか」症候群
72	情報	3	「こっちの方がすいているよ」情報、「レースがありますよ」情報
72	証明書	3	「投票しましたよ」証明書、「ちゃんと受け取りましたよ」証明書

順位	後項	合計	用例
72	スイッチ	3	頑張ろうスイッチ、遊ぼうスイッチ、「行くぞ」スイッチ
72	スタンス	3	「負けないからな」スタンス、「まぁ聞けるならいいや」スタンス
72	セット	3	「甘いもの、これでもか」セット、「何にしようかな」セット
72	ソング	3	頑張れソング、「いっといで」ソング、「原発なくてもええじゃないか」ソング
72	チーム	3	「そこであきらめたら試合終了よ」チーム、「ガンガンいこうぜ」チーム
72	伝説	3	「両親ともに栗毛でないのに、栗毛の仔は走るぞ」伝説
72	度	3	「明日会社行きたくねぇ」度、「いい湯だな」度、「まあ、いっか」度
72	ドリンク	3	はじめの地球を守るッス！ドリンク
72	パターン	3	「お前が言うな」パターン、勘弁してよパターン
72	バージョン	3	「遅れてごめんね」バージョン、「泳ぐな」バージョン、「もしよかったら、電話かメールくださいね」バージョン
72	病	3	イタイイタイ病、「めんどくせー出かけたくないよー」病
72	風味	3	「おれに聞くな」風味、「ええ仕事してますねえ」風味
72	部分	3	「この屏風何も描いてないじゃん」部分、「おーなかが減ったよー」部分
72	ボタン	3	いいねボタン、読んだよ！ボタン、「予約開始時点でお知らせメール送るよ」ボタン
72	マン	3	どこでも開けちゃうマン、絶対○○マン、お金貸してマン
72	ムード	3	「北京五輪楽しみですね」ムード、「俺（私）たちはラブラブだぜ」ムード
72	ランキング	3	「こんなのがあったらイヤだな」ランキング、「何が一番美味しかったか」ランキング、「うまいねん」ランキング
72	リスト	3	「あんなこといいな、できたらいいな」リスト、「死ぬ前に絶対行くもんね」リスト、「観ようかな」リスト
72	論争	3	「ニワトリが先か、卵が先か」論争、「一生借家でよいのか持ち家か」論争
109	アドバイス	2	「こうしたらいいよ」アドバイス、「こうすれば直るよ」アドバイス
109	アラート	2	もうすぐ地震が来るよアラート、「少ないよ」アラート
109	アラーム	2	帰れアラーム、「鼻水たれてますよ」アラーム
109	祝い	2	産休入るよ祝い、引越し終わったよ祝い
109	女	2	保育園作ります女、土地買ってくれませんか女
109	化	2	「孫見に行かねーとな」化、「俺が法律だ」化
109	会	2	「産休頑張ってね」会、「打ち上げと称してしゃぶしゃぶ食おうぜ」会
109	係	2	「元気出していこうぜ」係、「探したんだけど見つからないよ」係
109	活動	2	「みんなで募金をよびかけよう！」活動、「見てね」活動
109	期	2	構って期、ほっといて期
109	競争	2	「自分のほうが苦労しているんだぞ」競争、「誰が給食を早く食べ終わるか」競争
109	禁止令	2	「フィギュア買うな」禁止令、「でもさぁ」禁止令
109	グッズ	2	疲れてちゃもったいないよグッズ、あるといいなグッズ
109	組	2	「独りでそんなに困らないよ」組、「ここでいいや」組
109	軍団	2	みんな額が広いぞ軍団、寝ないぞ軍団
109	芸人	2	「嫌なら見るな」芸人、相方どうかしてるぜ芸人
109	研究所	2	あったらいいな研究所、アクティブラーニングこんなのどうだろう研究所

順位	後項	合計	用例
109	公演	2	歌舞伎座さよなら公演、「Party が始まるよ」公演
109	効果	2	「いい子にしないとサンタさん来ないよ」効果、「おごりますよ」効果
109	コンテスト	2	「誰が一番安全運転か」コンテスト、日本語話そうコンテスト
109	実験	2	「満員電車には最大何％乗れるのか」実験
109	質問	2	「なんでそっち選んだのよ」質問、「どうしたの」質問
109	証明	2	「夫婦仲良くやってるのよ」証明、「受診しましたよ」証明
109	人生	2	「まいっか」人生、「音楽だけが友達さ」人生
109	勢	2	やるならやるぞ一勢、遊びじゃねんだよ勢
109	制度	2	「日頃の苦労忘れるために皆で打ち上げ行こうぜ」制度
109	セール	2	「来年こそは絶対優勝するぞ」セール、「来年こそは絶対勝つぞ」セール
109	センサー	2	ご飯もらえるぞセンサー、やばいぞセンサー
109	宣伝	2	「これで学ぶとこんなに英語ペラペラですよ」宣伝、「共産市政許すな」宣伝
109	戦略	2	「一気にいくぜ」戦略、「押してもダメなら引いてみな」戦略
109	騒動	2	「肖像権の侵害で訴えるぞ」騒動、「2 番じゃダメなんですか」騒動
109	隊	2	地球を守るぞ隊、人間ドック一緒に行くぞ隊
109	大使	2	ふくしま知らなかった大使、浜松市やらまいか大使
109	大賞	2	うわ！ダマされた大賞、「お前が言うな」大賞
109	大臣	2	産めよ増やせよ大臣、「注射怖いだもん」大臣
109	魂	2	負けじ魂、「俺達銀魂愛してるぜー」魂
109	ちゃん	2	構ってちゃん、困ったちゃん
109	党	2	「お前が言うな」党、「もうどうでもいいや」党
109	同盟	2	「子供は遊ぶぞ」同盟、もう何もかもどうでもいいよ同盟
109	トーク	2	「ばれたら大変だよね」トーク、「最近私身体壊して病院行ってるんだよね」トーク
109	能力	2	「なんでやねん！」能力、使わない知識なんて忘れてしまえ能力
109	パーティ	2	またねパーティ、しばらくお別れだねパーティ
109	ハラスメント	2	お前無理だろハラスメント、年収いくら？ハラスメント
109	版	2	みんなで歌おう版、お小遣い稼ぎ頑張るぞ版
109	評価	2	「いいね」評価、「まぁいいや」評価
109	プログラム	2	虫歯の一本もない子になろうプログラム、福島の子どもを守ろうプログラム
109	報告	2	「彼氏できたよ」報告、「結婚するよ」報告
109	物語	2	日本やるじゃん物語、次男頑張れ物語
109	モンスター	2	くれくれモンスター、やだやだモンスター
109	問題	2	「いい加減にしろよ」問題、北千住と南千住どっちなんだ問題
109	要請	2	「緊急事態宣言！不要不急の外出は控えてください」要請
109	力	2	「うまいこと言うな」力、晴れろ力
109	ルール	2	「黙って借金なんかしたら許さんぞ」ルール、「3 日空けちゃイカンぜよ」ルール
109	レター	2	「相談してね」レター、「今なら電池パック交換サービスするわよ」レター
109	WiFi	2	どんなときも WiFi、どこよりも WiFi

順位	後項	合計	用例
109	割引	2	「いいね」割引、「ブログ見たよ」割引
165	アイドル	1	もっと小顔にしなきゃいけないわよアイドル
165	アンケート	1	あったらいいなアンケート
165	ウィーク	1	頑張らなくてもいいんだよウィーク
165	おばさん	1	引っ越せおばさん
165	カード	1	4 枚引いてくださいカード
165	会議	1	経済ってそういうことだったのか会議
165	会見	1	「笑っちゃうよ」会見
165	解散	1	バカヤロー解散
165	勧告	1	「遠くから来てる人は早く帰っていいよ」勧告
165	関西人	1	なんやて関西人
165	記念	1	夏休み無事乗り越えたよ記念
165	記念日	1	「親になったぞ」記念日
165	教室	1	経済ってこうなってるんだ教室
165	教祖	1	晴れろ～教組
165	くん	1	「オレがルールだ」君
165	警察	1	マスクつけろ警察
165	結婚	1	できちゃった結婚
165	研究会	1	「彼はナゼに譜面をみるのか」研究会
165	検証	1	「2 クロンの餌 300 個の釣果はどうなの」検証
165	講演会	1	みやざきの木をたっぷり使って良い家を建てよう講演会
165	構文	1	「カキ料理は広島が本場だ」構文
165	裁判	1	スマホ持つか持たないか裁判
165	作業	1	「あーでもねーこーでもねー」作業
165	試合	1	「取れるときに点が取れないとこういうことになるんだぞ」試合
165	じいさん	1	マスクしろ爺さん
165	シール	1	晴れろシール
165	事件	1	ミッドに巨大ロボが攻めて来たぜ事件
165	自慢	1	「マンション買ったわよ」自慢
165	集団	1	「ええじゃないか」集団
165	需要	1	やっぱり要るな需要
165	状況	1	お父さん頑張ってるよ状況
165	症	1	偏頭痛と一緒でときどき突発的に目まいが来ますよ症
165	図鑑	1	「香川照之の昆虫すごいぜ！」図鑑
165	ストーリー	1	「良かったね」ストーリー
165	制	1	いつでも好きなときに来て下さいね制
165	生活	1	「ま、なんとかなるさ」生活
165	説	1	「64GB モデルもあるよ」説
165	然	1	さあ、いらっしゃい然
165	選手権	1	思い出せるか選手権

順位	後項	合計	用例
165	戦法	1	「余ったからあげるよ」戦法
165	族	1	「俺、サッカー好っきやねん」族
165	大作戦	1	カップルにマナーを教えてあげよう大作戦
165	態度	1	「そんなことも知らないのか」態度
165	チケット	1	本社まで来てくれたらドリンクおごるよチケット
165	チャンネル	1	山形を熱くしよう！チャンネル
165	調査	1	「日本人は幸福な生活を送る上で、何が必要か」調査
165	ついで	1	「住所録リストにあるから」ついで
165	電車	1	「きっとサクラサクよ」電車
165	展覧会	1	みんなでつくろう展覧会
165	トレーニング	1	「勝手にドアの外に出るんぢゃねーぞ」トレーニング
165	並み	1	こっちだって寝てないんだよ並み（の言い訳）
165	ニーズ	1	「メイクを教えて」ニーズ
165	日記	1	「なんでやねん」日記
165	忍者	1	カメラに映っちゃダメ忍者
165	俳句	1	頭悪そう俳句
165	話	1	きつかった話
165	パフェ	1	いちごにキュンですパフェ
165	弁当	1	バカが食うやつだな！弁当
165	待ち	1	そんなことないよ待ち
165	メロディ	1	はよ帰れメロディ
165	モデル	1	「こっち見んな」モデル
165	用	1	後で見よう用（のメモ）
165	流	1	まっいいか流
165	旅行	1	「ゆっくりでいいさ」旅行
165	令	1	帰りなさい令
165	レポート	1	「こんな人たちがいたよ」レポート
165	練習	1	「調子にのっちゃっあいけないけど、まだ負けないぞ」練習
165	枠	1	特待生になりきれない枠
合計		384	

上記の調査資料における文包摂名詞の出現状況を見ると、文包摂名詞の後項の名詞・接尾辞の意味的な特徴としては、抽象的な概念を表すものが多いという傾向が見られる。例えば、言語活動を表す形式（「発言」「トーク」「コール」「コメント」など）、状態・様相を表す形式（「状態」「状況」「感」「オーラ」「風」「調」など）、類型を表す形式（「型」「系」「タイプ」など）、集団を表す形式（「グループ」「組」「クラス」「チーム」など）、活動・イベントを表す形式（「イベント」「祭り」「パーティ」「プロジェクト」「会」「展」など）、働きかけを表す形式（「詐欺」「攻撃」「ハラスメント」「アピール」など）などがある。用例数は多くないものの、物体や人物を表す形式（「パフェ」「ドリンク」「カード」「おじさん」「女」など）も見られる。

また、前項の形式的な特徴として、前項は独立語文・述語文、単文・複文、言いさし文、談話相当の要素など、どのような形式をとる要素であってもなり得るという点が見られる。前項の表記的な特徴としては、前項の文相当の要素には、感嘆符や疑問符、顔文字や絵文字、鉤括弧などが付された実例が多数見られ、話し言葉や打ち言葉に特有の記号が用いられやすいという点が挙げられる。

ただし、このような形式的な自由度の高さがあるものの、どのような形式の文であっても前項になるわけではなく、後項の名詞や接尾辞が表す意味と、意味的に親和性の高いモダリティを表す文が前項になりやすい。例えば、「キャンペーン」という名詞は、何らかの目的を持って多くの人に呼びかける活動を表すことから、勧誘のモダリティを表す文相当の要素と親和性が高い。そのため、「キャンペーン」と結びつく前項の文末は、勧誘のモダリティを表す動詞の意志形が出現しやすいという形式的な特徴が見られる。

5. 考察

5.1　個人による臨時的な名づけとしての文包摂名詞

以下では、名づけという観点から文包摂名詞の使用実態を記述し、その使用動機の基盤を考察する。実例を観察すると、文包摂名詞は一般的な語と同様に次のような性質が見られる。すなわち、語彙的な側面から見ると、「語」には命名的な機能があり、人・物・事、動き・変化、状態・性質といった現実の個々の断片を一般的に名づける（石井、2014）という性質である。例えば、現実世界にある「平地よりも高く隆起した地塊」を「山」と名づけて一般化しているのと同様に、「振り込め詐欺」という文包摂名詞は「電話などで相手を騙し、指定の口座に現金を振り込ませる犯罪行為」を名づけたものである。

そこで以下では、文包摂名詞が名づけとして用いられていることに着目し、個人が臨時的な名づけを行っている場合を例に挙げ、その使用実態を記述する。以下の例（1）（2）の文包摂名詞は、それぞれ個人が世界の中から切り取った断片を名づけている。

（1）＜次回のトライアスロンのレースに向けた水泳の練習にて＞
そんな泳ぎに変えるのじゃー。名付けて「みんな来年の俺を見たらビックリするぞ作戦[7)]」。
ということで今日は体の動きと使うべき筋肉を意識した練習。
（ブログ『ホノルルマラソンに出てから』[8)]）

（2）＜他の選択肢とは種類の異なる選択肢を選ぶ形式の問題について＞
テキストの各章から満遍なく 3 ～ 5 問ずつ出題されており、中にはサービス問題 →「仲間はずれを探せ」コーナー（勝手に命名）もあります。　（ブログ『kimidoring』[9)]）

例（1）では、「来年、自分を見た人たちを驚かせようとする企て」を「みんな来年の俺を見

たらビックリするぞ作戦」と名づけている。例（2）では、話者が受験した試験問題のうち、「他の選択肢とは種類の異なる選択肢を選ぶ形式の問題」を「「仲間はずれを探せ」コーナー」と名づけている。命名者が例（2）のように命名したのは、1つだけ種類の異なる選択肢を選ぶ出題形式を、「仲間はずれを探せ」という言葉で表現し、さらに、試験問題の中でそのような形式の問題が複数出題されている箇所を1つの区画（「コーナー」）のように捉えたからであると推測される。例（1）（2）に共通しているのは、前項語基が名詞である一般的な複合語の構造（例：「ダイエット作戦」「間違い探しコーナー」など）では、命名者が表現対象を的確に表し切れないという点であると考えられる。なお、例（1）（2）のそれぞれの用例中には「名付けて」「勝手に命名」（用例中の波線部）という共起表現があり、話者（書き手）自身が名づけ（あるいは造語）を行っていると自覚していることが窺える。

また、以下の例（3）の下線部は、既存の病名があるものの、あえて文包摂名詞を用いてわかりやすく再命名している例である。

（3）＜病院で診断された病名とその症状について＞

病名は『良性発作性頭位目まい症』という何だか長くて、難しそうな名前

まぁ、早く言えば『偏頭痛と一緒でときどき突発的に目まいが来ますよ症』だそうです

（ブログ『MASCARADE ～仮面舞踏会～』[10]）

上の例（3）の「偏頭痛と一緒でときどき突発的に目まいが来ますよ症」とは、「良性発作性頭位目まい症」（波線部）を正式名称とする病名を指し、突発的にめまいが生じる疾患を表している。このブログの筆者は、「良性発作性頭位目まい症」という難解な病名に対して、それを平易に言い換える形で「偏頭痛と一緒でときどき突発的に目まいが来ますよ症」と換言している。このように表現することで、読み手に診断された病名をわかりやすく伝えることが可能となる。

他にも、文包摂名詞を用いてわかりやすく換言する例には、「4枚引いてくださいカード」という表現がある。これは「UNO」というカードゲームの「Wild Draw Four」というカードを指している。あるプレイヤーが「Wild Draw Four」というカードを出すと、その次のプレイヤーは山札から4枚のカードを引かなければならない。「Wild Draw Four」というカードの名前を「4枚引いてくださいカード」と表現することで、UNOをしたことがない聞き手や英語が分からない聞き手にも、そのカードについてわかりやすく伝えられる。

このように、文包摂名詞の前項が文相当の要素であることにより、命名者は自分が表現したいと思う対象を聞き手にもイメージが喚起されやすい形で提示できるのではないかと考えられる。これは一般的な構造の複合語では得られない「文包摂名詞ならではの表現効果」と言え、文包摂名詞が使用される動機付けの一つではないかと推察される。

人は新語を形成する際の動機には、ある新しい事態に遭遇した場合や、今まで感じたことのない感情を抱いた場合に、手持ちの言葉ではそれを表現しきれず、それまではなかったような語を

作り出して表現しようとするというものが挙げられる（小野、2018、691–692）。換言すると、表現の対象を的確に表す語が心的語彙の中に見当たらず、類義関係にある語では適切に表現しきれない場合、その表現対象を新たに名づけることとなる。上の例（1）～（3）の用例のように、文包摂名詞は、既知の語では表現の対象を的確に言い表せない場合や、説明の難解なものを端的に伝達したい場合に有効な表現手段であると推察される。

文包摂名詞の構造を利用したこのような命名法は、現代日本語において若者を中心に比較的定着しているものではないかと思われる。実際に大学生がそのような型を利用して新しい名づけをしていることが窺える研究には、新語の形成過程について考察した黒﨑（2018）がある。そこでは、大学生がグループの中で、「前から歩いてくる人にぶつかりそうになり、左右に避けたところまたぶつかりそうになる現象」をどのように命名するのかという実験を行っている。

実験結果を見ると、まず、A グループでは、27 の名前の候補が出されているが、文包摂名詞は用いられていない。B グループでは、14 の候補が出され、そのうちの 3 つ（全体の約 21.4%）が文包摂名詞を用いた命名である（「お前もか現象」「こっち来るの現象」「こっち来んな現象」）。C グループでは、76 の候補が出され、そのうちの 24 の候補（全体の約 31.6%）が文包摂名詞を用いた命名である（「ぶつかっちゃうよ現象」「気が合うね現象」「どうも、ごめんなさいね現象」「道譲り合っちゃったよ現象」など）。

通常、多くの人は当該の現象を経験したことがあっても、それを一般に名づける語を心的語彙の中から見つけられるとは限らない。黒﨑（2018）の実験結果を見ると、そのような言い表しにくい表現対象に対する臨時的な命名として、文包摂名詞の使用は、少なくとも大学生の間では比較的定着している造語法なのではないかと考えられる。

さらに、このように臨時的な名づけによって誕生した文包摂名詞は、徐々にその使用が定着するものも見られる。例えば、地名として用いられる文包摂名詞の例には「おいてけ堀」がある。「おいてけ堀」は、『精選版 日本国語大辞典』によると、江戸本所（現在の東京都墨田区南部地域）にあった池の名称であり、本所七不思議という伝承の 1 つでもある。この池で釣りをすると、水中から「置いてけ、置いてけ」と呼ぶ声がし、釣った魚をすべて返すまではこの声が止まなかったという。この「置いてけ、置いてけ」という声を文包摂名詞の前項に引用し、その声のする場所を表す「堀」という名詞を後項に用いることで、当該の池を「おいてけ堀」と名づけているのだと考えられる。

祭りの名として定着している文包摂名詞の例としては、宮崎県日向市美々津町で伝統的に催されている「おきよ祭り」が挙げられる。「おきよ祭り」は、古語「起く」の命令形「起きよ」と、「祭り」とが結びついた文包摂名詞である。宮崎県日向市の公式ホームページ[11]によると、この祭りは、八朔（旧暦 8 月 1 日）の夜に、子どもたちが「起きよ、起きよ」と言いながら、短冊飾りのついた笹で家々の戸を叩いて回る祭りであるという。この祭りの起源は、神武天皇が東征した際の説話であるとされる。神武天皇はこの地から船出したと伝えられているが、風向きの変化によって急遽出発することとなったため、町の人に「起きよ、起きよ」と声を掛けて回り、船出

の準備をしたという。この由来をふまえると、「おきよ祭り」の前項「おきよ」は、町を回りながら呼びかける「起きよ、起きよ」という声を引用したものであると考えられる。

歴史上の事実の俗称として定着している文包摂名詞の例には、「バカヤロー解散」がある。「バカヤロー解散」は 1953 年に吉田茂首相が行った衆議院解散の名称である。野党からの追及に対して吉田茂首相が「バカヤロー」と発言したことが問題となり、内閣不信任決議案が可決され、解散に至ったとされる[12)]。解散の引き金となった吉田茂首相の「バカヤロー」という発言は、当該の衆議院解散を特徴づけるものであり、それがそのまま文包摂名詞の前項に引用されている。

以上、本節では文包摂名詞が臨時的な名づけとして用いられ、既存の語では表現しきれない対象を名づけ、聞き手にわかりやすくイメージを喚起させられることを述べた。また、文包摂名詞が現代日本語における造語法として比較的定着しているものであり、歴史を遡ると、文包摂名詞を用いて名づけが行われた実例があることも確認できた。

5.2　商業・広報などを目的としたネーミングとしての文包摂名詞

文包摂名詞は個人による臨時的な名づけ以外にも、主に商業・広報を目的としたネーミングとして用いられる場合が見られる。「ネーミング」とは、『新明解国語辞典』（第七版）によると、「消費者などに印象づけることを目的とする、商品などの効果的な命名」のことである。本研究では、商品名に限らず、商業や広報を主な目的として、聞き手に印象付けるために戦略的に考えられた名づけのことを「ネーミング」と呼ぶこととする。以下、文包摂名詞がネーミングに用いられている例を順に見ていく。

商品名として用いられている文包摂名詞の例には、「いちごにキュンですパフェ[13)]」という苺が使われたパフェの名称がある。「キュンです」は 2020 年頃から若者の間で流行しているフレーズであり、このような一種の定型的な表現を取り入れた文包摂名詞が商品名となっている。このパフェを食べた人物の感動を、流行語を用いて言語化するならば、「いちごにキュンです」という言葉であると想定し、それを文包摂名詞の前項に引用したものではないかと考えられる。

番組名に用いられている文包摂名詞の例には、「うわっ！ダマされた大賞」がある。「うわっ！ダマされた大賞」はいわゆるドッキリを仕掛ける番組の名称である。「うわっ！ダマされた」はまさにドッキリを仕掛けられた人物が、ドッキリであることを明かされた際に発話すると想定される言葉である。番組内で紹介された「ドッキリ」のうち、特に面白かった企画に贈られる賞もまた「ダマされた大賞」と呼ばれ、これも文包摂名詞の一例である。

キャンペーンの名称として用いられている文包摂名詞の例には、「ウルトラ！ゼンリョク！幻のポケモンをもらおうキャンペーン」がある。これは、株式会社ポケモンが販売する商品を購入して応募すると、『ポケットモンスター』というゲームに登場するレアポケモンが入手できるというキャンペーンである。「幻のポケモンをもらおう」は、幻のポケモンを手に入れたいというゲームプレイヤーたちに対して、キャンペーンの実施者が呼びかけ・誘いかけとして発話すると想定されるものであり、それを文包摂名詞の前項に引用したものではないかと思われる。

キャンペーン名から派生して、SNS 上のハッシュタグの名称に用いられる例もある（例（4））。

（4）＜森永乳業が製造・販売するアイスクリーム「パルム」の CM について＞
「#今日のアイスどうする問題[14]」とは、今日食べるアイスは濃厚なものにするか、さっぱりとしたものを選ぶか、定番商品にするか、新商品にするか……など、多くのアイス好きが抱いている、日々の悩める問題です。本 CM では、どんな時もスマートに決断をする竹野内豊さん演じる敏腕部長が、コンビニのアイスケースの前で「#今日のアイスどうする問題」について真剣に悩むお茶目な姿が描かれています。
（森永乳業『パルム』公式ホームページ[15]）

上の例（4）では、命名者はアイスをめぐる問題（用例中の波線部）を「今日のアイスどうする問題」と名づけている。アイスの購入に際してあれこれと悩む人々の心内発話として想定されるもの（「今日のアイス、どれにしよう」「今日はどのアイスを食べようかな」など）を「今日のアイスどうする」という形式で代表させて前項に配置し、そのような悩ましい事柄を「問題」と捉えたことで、「今日のアイスどうする問題」という文包摂名詞が作られたと推察される。

「振り込め詐欺」「母さん助けて詐欺」（例（5））といった特殊詐欺の名称も、一種の広報目的の表現であると言える。

（5）「振り込め詐欺[16]」に代わる新たな名称を募集していた警視庁は 12 日、東京都中央区の歌舞伎座で開いたイベントで、応募のあった約 1 万 4 千点から最優秀作品として「母さん助けて詐欺」を選んだと発表した。　（『日本経済新聞』（電子版）2013 年 5 月 12 日[17]）

これらの新名称は、もともとは「オレオレ詐欺」などの名称で呼ばれていたものが、詐欺の手口の巧妙化に伴い、再命名されたものである。

以上、本節では、文包摂名詞が個人による臨時的な名づけ以外にも、主に法人が商業や広報を目的としてネーミングを行う際にも用いられるということを見た。ネーミングではキャッチーな表現が求められると考えられるが、次節では文包摂名詞が持つ性質がそのようなネーミングに用いられやすい基盤になっていることを述べていく。

5.3　文包摂名詞の表現効果

本研究では文包摂名詞が広く使用される動機付けの 1 つに「新奇性」という表現効果があると考える。「新奇性」に関する明確な定義はないが、鈴木（2020）を参考に、本研究では「新奇性」を「受け手側に目新しさや特異さを感じさせ、ユニークでユーモアのある印象やインパクトを与えるという伝達上の表現効果」とする。

本研究で文包摂名詞と位置づけられる形式について、上述の「新奇性」という表現効果が見ら

れることを指摘した先行研究には、新屋（2014）および鈴木（2020）がある。新屋（2014）は、後項が名詞「状態」である文包摂名詞（「交換システム作って～状態」「枯れ木？！状態」など）について考察を行っている。そのうえで、後項が名詞「状態」である文包摂名詞には、若者語のコミュニケーション機能の１つである「娯楽機能」があると述べている。「娯楽機能」とは、「会話に笑いを生じさせ、楽しむ機能」（米川 1996、16–27）のことである。

また、新しい表現が創発される過程について論じた鈴木（2020、202–204）では、種々の新奇な表現を扱っているが、その中で「めっちゃコンサート行きましたアピール」という文包摂名詞を取り上げている。そこでは、このようなユニークな表現が発話の場で臨時的に創造された際に、受け手側には相応のインパクトがあるものとして受け取られると述べられている。それは、表現者が文包摂名詞のような特異な表現を用いることで、「新しいことをした」「うまいことを言った」というのが受け手側に伝わるからだという。

以下の例（6）および例（7）は、「母さん助けて詐欺」という表現について、ウェブ上の質問サイトで投稿された質問とその回答である。例（7）の回答者は、「母さん助けて詐欺」という文包摂名詞をインパクトのある表現であると捉えていることが窺える。

（6）＜「振り込め詐欺」に代わる新名称の「母さん助けて詐欺」に関する質問＞

警視庁が、「振り込め詐欺」に代わる新名称を一般から募集していましたが、このたび、「母さん助けて詐欺」という名称が最優秀作品に選ばれたそうです。優秀作は、「ニセ電話詐欺」「親心利用詐欺」ということですが、この、“母さん助けて詐欺”という名前、どう思いますか？私はむしろ、優秀作だった「ニセ電話詐欺」の方がしっくりきます。

（7）＜上記の質問に対する回答＞

母さん助けて詐欺はいい名称だと思いました。ちょっとどうかな～と言う人も出て来ると思いますが、インパクトを持たせるにはこれくらい印象的なネーミングでないといけません。[……] [18]

＞私はむしろ、優秀作だった「ニセ電話詐欺」の方がしっくりきます。

これは無難だけど無難ではインパクトがなく効果もないです。

（質問＆回答コミュニティ『教えて goo』[19]）

例（6）では質問者が「母さん助けて詐欺」という名称に対する感想を求めており、それに対して、例（7）では回答者が「インパクトを持たせるにはこれくらい印象的なネーミングでないといけません」（用例中の波線部）と述べている。このことから、受け手側が「母さん助けて詐欺」をインパクトのある印象的な表現だと捉えていることが窺え、文包摂名詞の使用による表現効果として新奇性が生じていると言える。

文包摂名詞によって新奇性が発現していることが窺える用例は他にも見られる。新語の形成過程について考察した黒﨑（2018）では、大学生のグループの中である現象に対してどのような

名づけを行うのかという実験を行っている。グループ内での議論では、名づけの際に文包摂名詞が用いられ、それに対する周囲の反応として、ユーモアやインパクトを感じている様子が見受けられる（以下の例（8））。なお、グループで新たに名前を付ける対象は「前から歩いてくる人にぶつかりそうになり、左右に避けたところまたぶつかりそうになる現象」である。

（8）＜ある現象に名前を付けるというグループワークにて＞

A「バシッと決めたいね。」（030364A[20]）

D「お前もか現象。」（030365D）

全員（笑う）（030366ABCD）

A「いや…（笑う）」（030367A）

C「なんか、違くない？（笑う）」（030368C）

B「でもそれ、すごい好き！（笑う）」（030369B）［……］

B「はぁ。」（030389B）

A「お前もか現象。」（030390A）

B「うん。面白い。それはすごい好きかもしれん。」（030391B）

A「なるほど。」（030392A）［……］

C「なんかもう、お前もか現象って流行語にしか聞こえん。」（030706C）

全員（笑う）（030707ABCD）

D「インパクト強いよね。」（030708D）

A「強い。だって忘れないもん。」（030709A）

B「うん、絶対忘れない。多分あたしこれからも言う。」（030710B）

（黒﨑（2018、164–168）実験データ A–2 より一部記号などを省略して抜粋）

上の例（8）において、まず大学生 D が当該の現象を「（すれ違いざまに自分と同じ方向に避けようとする相手に対して）『お前も（同じ方向に避けるの）か』と言いたくなるような現象」と捉え、「お前もか現象」と名づけている（030365D）。この命名の直後に、大学生 D と聞き手であった大学生 A ～ C の全員が笑っていることから（030366ABCD）、この表現形式に面白さを感じていることが窺える。その後のディスカッションでも、大学生 B が「お前もか現象」について「面白い」「すごい好き」（030391B の波線）と述べていることから、このネーミングにユーモアを感じ、好意的に捉えていると推察される。

さらに、命名者である大学生 D 自身も「お前もか現象」について「インパクト強い」（030708D の波線）と評価している。これに反応する形で大学生 A が「強い。だって忘れないもん」（030709A の波線）と述べていることから、忘れられないほどのインパクトがある表現だと感じていることがわかる。続けて大学生 B は「絶対忘れない」「これからも言う」（030710B の波線）と大学生 A に同調していることから、今後も使用したくなるほどインパクトのある表現だと評価していたこ

とが窺える。上の例（8）の会話参加者の反応をふまえると、表現者自身を含め、その場にいた受け手全員が「お前もか現象」という文包摂名詞をユーモアとインパクトのある表現と評価していることが見て取れる。

このような「新奇性」という表現効果の発現基盤には「逸脱性」があると考えられる。鈴木（2020、188–192）は新奇性を持った表現形式のデータを収集し、その新奇性が発現する基盤として最も多いのは、合成という造語法における逸脱性であるとしている。具体的に言うと、一般に合成語は語基と語基、あるいは語基と接辞の組み合わせによって形成されるが、本来は形態的・意味的に組み合わさるはずのない要素同士が結びつくことによって生じる「違和感」が新奇性の基盤になっているのだと推察される。

文包摂名詞が持つ「逸脱性」によって受け手側に違和感が生じていることと、その違和感によって「新奇性」が発現するということは、前掲した「母さん助けて詐欺」をめぐる問答からも窺える（例（9））。

（9）＝（7）母さん助けて詐欺はいい名称だと思いました。ちょっとどうかな～と言う人も出て来ると思いますが、インパクトを持たせるにはこれくらい印象的なネーミングでないといけません。［……］
＞私はむしろ、優秀作だった「ニセ電話詐欺」の方がしっくりきます。
これは無難だけど無難ではインパクトがなく効果もないです。

上の例（9）では、回答者（受け手側）は「母さん助けて詐欺」という名称に対して「ちょっとどうかな～と言う人も出て来ると思います」（用例中の 1 つ目の波線部）と述べており、「母さん助けて詐欺」が持つ「違和感」によって、この新奇表現を許容しがたい人が一定数いると推測している。同時に、回答者は「インパクトを持たせるにはこれくらい印象的なネーミングでないといけません」（用例中の 2 つ目の波線部）と主張しており、「新奇性」を発現させるにはそのような違和感が必要であると考えていることが推察される。「母さん助けて詐欺」は広報を目的に名づけられたものであるため、一般市民への注意喚起を効果的に行ううえでは、インパクトのある印象的な表現でなければならないのであろう。

また、「ニセ電話詐欺」という名称のほうが良いという質問者の意見に対しては、回答者は「これは無難だけど無難ではインパクトがなく効果もない」（用例中の 3 つ目の波線部）と指摘している。「ニセ電話詐欺」という表現を回答者が「無難」だと感じてしまうのは、これが複合名詞として適格な内部構造を持ち、「母さん助けて詐欺」という逸脱した表現と比較すると形態的に安定した造語だからではないかと推測される。形態的に安定した表現であればそれだけ「新奇性」が感じられにくくなるのは自然なことである。したがって、文包摂名詞における「新奇性」の発現基盤となるのは、やはり「逸脱性」なのだと考えられる。

広告で用いるといった使用場面の要請を受けて「新奇性」の高い表現を求めるとなれば、表現

者は「新奇性」の発現基盤を担保しなければならなくなる。「新奇性」の発現基盤として最も多いのが「逸脱性」であることをふまえると（鈴木 2020、189–190）、文包摂名詞の形成を可能とする 1 つの要因として考えられるのは次のようなものである。すなわち、「新奇性」を期待する表現者の表現意図に応えるうえで、「逸脱性」こそがその実現に不可欠な要素であるため、文包摂名詞の形成が可能になっているのではないかということである。換言すれば、文包摂名詞は一般的な語形成規則を「逸脱しているにもかかわらず」用いられているのではなく、「逸脱しているからこそ」狙い通りの表現効果が得られ、多少違和感のある表現であったとしても広く使用されているのだと推察される。なお、広告媒体などで文包摂名詞が用いられやすいのは、「新奇性」が宣伝効果に直結するものであり、両者の親和性が高いからだと考えられる。

以上をまとめると次のようになる。「新奇性」とは表現形式の目新しさから、受け手側にユーモアやインパクトを感じさせるという表現効果のことである。文包摂名詞は語構成上の逸脱性によって生じる違和感があり、この違和感が「新奇性」を発現させる基盤となるのである。

6. 本研究で得られた示唆と今後の課題

本研究では、文包摂名詞の考察を通していくつかの示唆が得られた。まず、引用研究の射程が広がった点が本研究の意義の 1 つであると考えられる。文包摂名詞の前項は文相当の要素であるが、これはほとんどがどこかから引用された言葉であると考えられる。従来、藤田（2000）や加藤（2010）などの引用研究は構文論や談話研究において文の単位や談話の単位が考察の対象とされてきた。しかし、本研究は、文包摂名詞の形成を支える基盤について考察する過程で、引用された言葉が語構成要素として機能することを示した。これにより、引用研究は語形成論において語の単位も考察の対象となり得ることが明らかとなった。

次に、本研究では現代日本語における文包摂名詞の記述および考察を射程としているが、本研究の成果は日本語の歴史的な研究の足掛かりにもなると考えられる。例えば、平安時代にも本研究の研究対象とする形式と同様の形式的特徴を備えた表現が観察される。以下の例（10）～（13）はいずれも『日本語歴史コーパス』から採取した用例である。

（10）<u>ようなしごと</u>いと多かりや（源氏物語・行幸）
（11）<u>事なし草</u>は、思ふ事をなすにやと思ふもをかし（枕草子）
（12）一日は<u>つれなし顔</u>をなむ（源氏物語・若菜上）
（13）<u>負けじ魂</u>に、怒りなば、せぬことどももしてん（源氏物語・玉鬘）

これらの用例はいずれも、文相当の要素を前項としており、現代語の文包摂名詞に通ずる言語表現である。今後はこのような歴史的な観点から文包摂名詞について考察を進めていくことで、日本語における造語の性質の一側面を明らかにし、語形成論に資する研究を目指す。

さらに、通言語的な観点も視野に入れながら、文包摂名詞について考察を進めることも重要であると考えられる。英語には、「Save–the–WHALES campaign」（鯨を救おう運動）や「'We love Anne DIAMOND' party」（アン・ダイアモンド愛してます党）のように、日本語の文包摂名詞に類似する合成名詞が見られる[21)]。前者は「Save the WHALES」という命令文相当の要素がハイフンを伴って合成名詞の前項になっている。後者は「We love Anne DIAMOND」という「文相当の要素」が引用符を伴って合成語の前項になっている。英語の例だけにはなるが、文包摂名詞は日本語のみならず、通言語的にも普遍的な現象ではないかという示唆が得られた。

本研究では、文包摂名詞という逸脱表現を取り上げ、その出現状況の調査と使用実態を記述し、名づけの観点から考察を行ってきた。文包摂名詞以外にも、実際の言語使用では、規則を逸脱した言語表現（ら抜き言葉・二重敬語など）が数多く観察される。金澤他（編）（2021）でも指摘されている通り、このような逸脱表現の産出は、言葉が新しい意味や機能を獲得する過程の一端を示すため、言語変化の要因を読み解く知見になり得る。今後も文包摂名詞の考察を継続し、現代日本語の言語変化を動的に捉え、そのプロセスの解明を目指す。

注

1）「いいねボタン」とは、種々のSNSの中で、誰かが投稿した文章や画像などに対して共感の気持ちを示すための機能（クリックするボタン）の総称である。

2）「俗に、他人にほめられたい、親切にされたいなどの気持ちが強く、周囲の人の気を引くような言動を繰り返す人」のことである（『デジタル大辞泉』2021年6月28日アクセス）。

3）接尾辞「感」の用法について考察した曽（2017、152）では、「「やっちまったなあ」感」「バブル後に全ていなくなりました感」などを例に挙げ、文相当の要素と「感」が結びつく表現を「文を包摂する「感」」と呼んでいる。本研究ではこれに倣い、便宜的に「文を包摂する合成名詞」という用語を用いるが、実際には文ではなく、談話相当の要素と結びつく例も見られる（例：「「行った先でどうにかなるさ〜。買えばいいじゃん」主義」「「めんどくせー出かけたくないよー」病」「「熱？平熱じゃん」クラス（の超微熱）」「「緊急事態宣言！不要不急の外出は控えてください」要請」など）。

4）類似する言語現象には、「句の包摂」（影山、1993）がある。これは「中世のフランス風」「懐かしの名器展示会」「24日に開催された美人コンテスト会場」（下線部が句の部分）など（影山1993:326–327）、合成語の内部に「句」が包み込まれていると捉えられる現象のことである。

5）「打ち言葉」とは、SNSなどのインターネットを介したサービス上のテキストで用いられる言葉のことである（文化庁、2018）。

6）『国語研日本語ウェブコーパス』を用いて「終助詞」に「名詞」が直接後続する形式および「終助詞」と「名詞」の間に「鉤括弧閉」（」）を介する形式を検索した。検索の結果として得られた2万件のデータを集計したところ、文包摂名詞の前項の文末に生起するのは終助詞「な」（303件）が最も多かった（泉、2018）。

7）本稿における下線はすべて筆者による。

8）http://macoto1127.blog45.fc2.com/blog–date–201308.html（2017年11月3日アクセス）

9）　http://xxxkimidorinxxx.blog115.fc2.com/?m&no=179（2018 年 11 月 13 日アクセス）
10）http://requiemwokanadeyou.blog53.fc2.com/blog-category-3.html（2021 年 7 月 21 日アクセス）
11）https://www.hyugacity.jp/sp/display.php?cont=140317132835（2021 年 6 月 23 日アクセス）
12）『デジタル大辞泉』2021 年 6 月 23 日アクセス
13）回転寿司チェーン店「スシロー」が 2021 年春頃に販売を開始したパフェである。
14）「# 今日のアイスどうする問題」の「#」という記号は「ハッシュタグ」である。「ハッシュタグ」とは、「ツイッターなどのソーシャルメディアにおいて、特定のテーマについての投稿を検索して一覧表示するための機能。」のことである（『デジタル大辞泉』2021 年 6 月 1 日アクセス）。
15）https://parm-ice.jp/cm/（2021 年 6 月 1 日アクセス）
16）「振り込め詐欺」とは、「電話・インターネットなどで虚偽の請求や懇願をし、指定口座に金を振り込ませる詐欺。」（『広辞苑』（第七版））のことである。
17）https://www.nikkei.com/article/DGXNASFK12008_S3A510C1000000/（2018 年 7 月 3 日アクセス）
18）［……］は筆者が引用の際に省略したことを示す。
19）https://oshiete.goo.ne.jp/qa/8084403.html（2021 年 5 月 15 日アクセス）
20）括弧内は黒﨑（2018）がグループワーク内で学生の発話や行動に付与した ID である。
21）英語の用例は窪薗（1995:136）の例（160）a および b である。和訳は筆者による。

付記

1）　本研究は日本学術振興会科学研究費研究活動スタート支援 22K20017「現代日本語における逸脱的な造語の成立基盤に関する研究」（研究代表者：泉大輔）の助成を受けたものです。また、国立国語研究所機関拠点型基幹研究プロジェクト「多世代会話コーパスに基づく話し言葉の総合的研究」（プロジェクトリーダー：小磯花絵）の研究成果です。

参考文献

石井正彦（2007）『現代日本語の複合語形成論』、ひつじ書房.
石井正彦（2014）「語」、『日本語大事典（上）』、朝倉書店、pp.725-726.
泉大輔（2018）「文が名詞に直接接続する構文の形式的特徴に関する考察」、『第 16 回日本語教育研究集会予稿集』、日本語教育研究集会、pp.26-29.
小野正弘（2018）「名前・命名」、日本語学会（編）『日本語学大辞典』、東京堂出版、pp.691-692.
影山太郎（1993）『文法と語形成』、ひつじ書房.
加藤陽子（2010）『話し言葉における引用表現 ── 引用標識に注目して ── 』、日本語研究叢書（25）、くろしお出版.
金澤裕之・川端元子・森篤嗣（編）（2021）『日本語の乱れか変化か ── これまでの日本語、これからの日本語』、ひつじ書房.
金田英里（2014）「接尾辞としての『 ── 感』に前接する要素の拡大」、『日本語教育論集』第 23 号、姫路獨協大学大学院、pp.1-8.
窪薗晴夫（1995）『語形成と音韻構造』、くろしお出版 .
黒﨑貴史（2018）「熟議を利用した新語形成プロセスに関する研究」、山口大学大学院東アジア研

究科博士論文.
『広辞苑』（第七版）（2018）、岩波書店.
『国語研日本語ウェブコーパス』、国立国語研究所 http://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/nwjc2021 年 3 月 11 日アクセス.
『新明解国語辞典』（第七版）（2012）、三省堂.
新屋映子（2014）『日本語の名詞指向性の研究』、ひつじ書房.
鈴木亮子（2020）「新表現の創発 ── 新しくない中にめっちゃ新しさ見えてるアピール ── 」、中山俊秀・大谷直輝（編）『認知言語学と談話機能言語学の有機的接点 ── 用法基盤モデルに基づく新展開 ── 』、ひつじ書房、pp.183–207.
『精選版 日本国語大辞典』（2005–2006）、1 ～ 3 巻、小学館.
曽睿（2017）「語構成から文構成へ ── 形態素『 ── 感』と自立語『感』との関わりから」、『国語学研究』第 56 巻、「国語学研究」刊行会、pp.142–155.
『デジタル大辞泉』https://dictionary.goo.ne.jp/jn/ 2021 年 9 月 28 日アクセス .
『日本語歴史コーパス』、国立国語研究所 https://chunagon.ninjal.ac.jp/chj/search 2021 年 3 月 11 日アクセス.
林四郎（1982）「臨時一語の構造」、『国語学』第 131 号、国語学会、pp.15–26.
藤田保幸（2000）『国語引用構文の研究』、和泉書院.
文化庁（2018）『分かり合うための言語コミュニケーション（報告）』http://www.bunka.go.jp/koho_hodo_oshirase/hodohappyo/__icsFiles/afieldfile/2018/04/09/a1401904_01.pdf 2019 年 2 月 8 日アクセス.
山下喜代（2005）「漢語と文体 ── 漢語接尾辞を含む合成語と引用表現を中心にして ── 」、中村明・野村雅昭・佐久間まゆみ・小宮千鶴子（編）『表現と文体』、明治書院、pp.87–97.
米川明彦（1996）『現代若者ことば考』、丸善.